

<b>活動名</b>  防災教育を進め備えよう	<b>団体名</b>	防災教育を進める北小と地域の会								
	<b>地域</b>	広島県安芸郡								
	<b>代表者</b>	府中北小学校 校長 後藤 ひとみ								
	<b>支援金額</b>	46万円								
<b>活動概要</b>										
<p>府中北小学校の空き教室を防災教育を進める拠点と、地域の災害発生時の対応拠点として整備し、北部町内会長連合会を中心とした地域住民と学校で連携し、以下の活動を行い防災への意識を高める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 防災に関する展示や災害発生時活用できる「防災のへや」を6年児童が地域住民の協力を得て作る。(阪神淡路大震災・東北大震災の被害状況・ボランティア活動のパネル、非常用持ち出し袋の内容、非常食、災害発生時の3日分の学校給食保存食での炊き出しメニュー等展示、ホワイトボード設置等)</li> <li>2. 全学年での防災教育の実施とマニュアル化 (DVD活用、体験者の体験談等)</li> <li>3. 減災講演会の実施 (元県危機管理対策監籠田純士氏を招聘し、教職員と地域住民と共に学び考える。)</li> <li>4. 北部地域対象の防災訓練の実施とマニュアル化、学校給食3日分備蓄食料での炊き出しの実施を行う。</li> </ol> <p>◆実施時期 2015年4月6日～2016年1月31日</p> <p>◆参加人数</p> <table> <tr> <td>通常の活動 (児童54名+教諭2名+地域住民1~9名) ×6</td> <td>354名</td> </tr> <tr> <td>減災研修会 (教職員, 地域住民)</td> <td>55名</td> </tr> <tr> <td>防災の日・講演会 (児童276名+地域・保護者46名)</td> <td>322名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>参加総人員 731名</td> </tr> </table>			通常の活動 (児童54名+教諭2名+地域住民1~9名) ×6	354名	減災研修会 (教職員, 地域住民)	55名	防災の日・講演会 (児童276名+地域・保護者46名)	322名		参加総人員 731名
通常の活動 (児童54名+教諭2名+地域住民1~9名) ×6	354名									
減災研修会 (教職員, 地域住民)	55名									
防災の日・講演会 (児童276名+地域・保護者46名)	322名									
	参加総人員 731名									



6月 広島市の土砂災害の被害状況等を調べる学習



7月 防災教育研修会を実施。講師 減災塾塾長 籠田 純士 氏



11月上旬 「防災の日」の避難訓練後、中間発表。



11月下旬 「防災のへや」づくり。地域の方々で作成。

#### ◆実施に伴う効果

- ・防災教育に取り組んでいることを校長便り等で定期的に伝えたため、府中町消防署等校区外からも講師等の協力の申し出が得られた。
- ・特に6年児童の意識が防災意識が高まり、急遽修学旅行の訪問先に「人と防災未来センター（神戸市）」を加え学習を進める等、学びが加速された。
- ・防災教育への取組を地域と連携して具体的に始め、防災教育の推進につながった。

#### ◆苦勞した点

- ・予算はマツダ財団からの助成を頂き解決し、「防災のへや」作りにとりかかることができた。
- ・外部へのPRについては、あらかじめ情報発信を定期的に行っていたため、そのルートを使い順当に進んだ。講演会等については特化してPRをした。
- ・参加者については、年度当初に北部町内会の会合に足を運んで協力を要請した。地域の方に地域の窓口になって頂いて声かけをお願いしたが、日時によっては少ないこともあった。
- ・地域の理解は活動の趣旨が伝わるにつれ、少しずつ進んできた。それに伴って、防災頭巾を一緒に作るという民生児童委員さんたちからの申し出や、府中消防署の協力も得られるようになった。日程調整や協力者への連絡、対応に気を配った。

#### ◆今後の課題・発展の方向性

- ・当初、4月から3月末までという長期間の活動として設定していたが、卒業を前に中学進学に向けての学習が入ってきて1月からは時間を確保しにくかった。手探り状態でスタートしたので来年度はもう少し段取り良く進めたい。
- ・教育研究会（1月22日）当日には、6年2組が研究授業（総合的な学習の時間「防災意識の向上プロジェクト」）を行い、4月からの防災学習で学んできたことを公開する。また、当日は「防災のへや」を来校者に公開する。その日の反省を今後の学習の方向に反映させていきたい。
- ・引き続き、地域に理解と協力を求め、地域のためにもなるように連携を進めていきたい。

#### ◆活動を終えての感想・意見等

市民活動助成をこの活動に受けられたことは、予算面だけでなく気持ちの面で支えになり、活動の追い風になりました。学校の活動を外部へ知って頂くことは学校を開くことであり、趣旨を説明したり活動計画を伝えるように作成したりと、することは増えますが、地域や他の団体と積極的に接触して学ぶことができ、とても遣り甲斐を感じました。

マツダ財団としての社会貢献活動にご縁があったことで、マツダについての理解も自動車販売以外に会社としての理念や活動の内容、他団体の活動等を知ることができ、視野を広げることができたと感謝しております。子どもたちも、マツダ財団の支援を受けて防災教育を進めることを知り、マツダに感謝と親近感を抱いております。